

学科名	電気通信工学科							
科目名	計測工学							
科目区分	専門科目	単位数	2単位	開講時期	2年次後期			
必修・選択の別	必修科目(組込みシステムコース)／必修科目(電気エネルギーコース)／必修科目(情報システムコース)							
担当者	江崎 秀							
授業の到達目標 (シラバスから)	<ul style="list-style-type: none"> ・回路に計測器を接続し、計測器の接続による誤差を見積ることができる。(A6,B1) ・信号が直流、交流、不規則、一過性の信号に分離できることを理解する。(A7,B2) ・信号を直流成分と交流成分に分離し、交流成分のパラメータを求めることができる。(A7,B2) ・計測における回路の特徴を理解し、演算増幅器による基本演算回路を設計できる。(A6,B1) ・基本的な計測器のデータシートを読むことができ、実務に適切な装置を選ぶことができる。(B1) 							
日程と内容	<ul style="list-style-type: none"> ① 9/15 ガイダンス・単位 ② 9/22 小テスト①・測定器の内部抵抗と正弦波 ③ 9/29 小テスト②・正弦波と矩形波の波形 ④ 10/6 小テスト③・直流、交流、実効値 ⑤ 10/20 小テスト④・DMM ⑥ 10/27 小テスト⑤・DMM続き ⑦ 11/10 小テスト⑥・DMM調査課題・オペアンプ ⑧ 11/17 小テスト⑦・オペアンプ2 ⑨ 11/24 小テスト⑧・オシロスコープ ⑩ 12/1 小テスト⑨・オシロスコープ調査課題 ⑪ 12/8 小テスト⑩・発振器 ⑫ 12/15 小テスト⑪・発振器調査課題 ⑬ 12/22 総合演習① ⑭ 12/23 臨時試験 ⑮ 1/19 総合演習② ⑯ 1/26 定期試験 							
成績評価基準	定期試験	20%	実技	0%	臨時試験	10%	部外評価	0%
	報告書・レポート	0%	プレゼンテーション	0%	課題	30%		0%
	演習	40%	計	100%				
授業到達目標の達成度	<ul style="list-style-type: none"> ・回路に計測器を接続し、計測器の接続による誤差を見積ることができる:到達した ・信号が直流、交流、不規則、一過性の信号に分離できることを理解する:到達した ・信号を直流成分と交流成分に分離し、交流成分のパラメータを求めることができる:到達した ・計測における回路の特徴を理解し、演算増幅器による基本演算回路を設計できる:到達した ・基本的な計測器のデータシートを読むことができ、実務に適切な装置を選ぶことができる:到達した 							
反省点	今年度は再履修クラスを設けず、再履修生も一緒に受講することにしたにもかかわらず、出席率、合格率ともに良好だった。総合演習の得点に比べ、定期試験の得点は10点以上高かったので、自己学習に対する成果も上がったと思う。また今年度より、調査課題にもムードルを導入し、Web化した。コピーを恐れていたが、概ね独自の調査をしたように思われた。							
来年度の計画	合格率高かったこと、授業評価アンケートの評価が高かったことなどから、来年度も今年度と同様の運営をする予定である。ムードルのさらなる有効活用を図りたい。							
授業評価アンケートに対するコメント	授業評価の総合評価は平均8.4点で昨年よりは下がったが、良好だと言える。「予習復習」の項目以外は、すべて4.0以上だったので、学生は授業を消化出来たものと思う。受講生の遅刻・欠席が少なく、課題提出の遅れも少なかった。							
履修登録者数	78名	定期試験 受験者数	73名	合格者数	63名	合格率	86%	